「雨」に見る略字の在り方

一年 福地 悠世

雨という字は、雨が部首の字も含め、日常に多く見かけるが、この字をよく注意して見ていると、時々四つの点が二つになった字に気付く。テストで書けば間違いになりそうだが、このような略字は誤字ではないのか。そんな事を考えてみた。

雨は象形文字で雨の降る形だが、古代文字を見てみると点がナ二個もついた字も見つけた。まるで土砂降りのようだ。それに対して三個、四個、六個と古代文字にも揺れがあった。無数の雨粒を表現した結果だ。点の数の揺れは、今に始まったことではなかった。

日本で生活する以上、漢字は毎日のように目にし、使う。だからこそ、漢字の利便性はとても重要だ。漢字というのは学ぶ為にあるのではなく、使う為にあるのだ。当たり前のようで僕は今までそれに気付かなかった。漢字に対して柔軟で、寛容であること、それを大切に漢字と関わっていきたい。雨という字は、そんなことを僕に感じさせてくれた。

20×20